

Ⅱ 「授業アップデートシート」の活用

Ⅱ-① 小学校教員の授業改善の様子

A小学校

校内研究主任が、一人ひとりの教員が作成した「授業アップデートシート」を職員室に置いて互いに見られるよう環境を整えられました。また、授業協議会の中で、学んだことを「授業アップデートシート」に書くとともに具体的に取り組みたいことをグループ内で確かめることを通して、校内研究会での学びを日々の授業に結び付けようとしておられました。その後実践したことについては、グループで交流され、来年度の研究につながられます。それぞれの教員が授業に関してどのような強みをもっているのか、どのようなことに取り組もうとしているのかを知っていることで、普段から授業について語り合ったり、他学級や他学年の授業を見に行ったりする教員の姿につながりました。

A小学校のある教員の「授業アップデートシート」

授業に関する自分の強み・課題				
強み		課題		
校内研究 授業実践	自分のめあて 今、気になっていること	学んだこと (印象深い児童生徒の様子・新たな知見など)	具体的に取り組みたいこと (時・場・方法など)	自己評価 (成果・進捗状況など)
校内研究会①		・授業づくりのステップが分かった。	・子どもの意識の流れを大切にしたい授業づくりに取り組みたい。	・発問や学習課題について、より考えるようになった。
授業研究会① 2年生の研究授業	・本時のねらいにせまる発問	・本時のねらいを絞ることで、評価や発問展開が変わるということ	・児童が「やりたい」「考えたい」と思えるような課題、問題、発問にする。	・学級の児童にとってより身近な課題や問題にするようにしている。
授業研究会② 特別支援学級の 研究授業	・子どものつばやきを生かすこと	・子どもの考えに寄り添う。	・子どものつばやきを全体に広げ、さらに考えるきっかけにする。	・本時のねらいに沿って、子どものつばやきを拾うように努めている。
めあてをもつ		学ぶ	学んだことを生かす	振り返る

- ★高学年に応じた数学的活動を行う。
- ★自力解決で学んだことや分かったことを生かせる適用問題にする。
- ★まだまだ自分が話しすぎてしまうので子どもの声を大事にする。



「授業アップデートシート」への記入と交流

学んだことを、明日からの授業につなげることが大切です！



A小学校教員

学校全体で、自分の空いた時間に他学級や他学年の授業を見に行くことが日常化しています。

Ⅱ 「授業アップデートシート」の活用

Ⅱ-② 中学校教員の授業改善の様子

B中学校

自分の課題を解決するために、新しい知識・技能を学び続け、授業改善に取り組まれるB中学校教員(国語科)の取組の様子を「授業アップデートシート」で確かめます。

B中学校教員(国語科)の「授業アップデートシート」

授業に関する自分の強み・課題				
ICTを十分に活用できていない。				
校内研究 授業実践	自分のめあて 今、気になっていること	学んだこと (印象深い児童生徒の様子・新たな知見など)	具体的に取り組みたいこと (時・場・方法など)	自己評価 (成果・進捗状況など)
第2回校内研究会 研究授業(数学科)	他教科からの 1人1台端末を 活用した授業の 提案		1学期 授業でICTを積極的に活用する。 1人1台端末を活用して、 生徒たち自身が動画をつくる授業 教師が話す時間を減らすことで、 生徒が主体となってグループで 協働的に学ぶ授業	
	2学期 1人1台端末に新しく導入されたアプリ (MetaMoji)を活用していく。 複数の短歌の中から一首を選び、 分析をして共有する授業 1人1台端末を活用することで、 分析した内容の共有が効率よく できるようになった。		アプリ(MetaMoji)の導 入により、分析内容の共有 などが効率よくできるよう になった。	○効果的な学習の ためにICTを活用 することができた。
			3学期 個別学習や協働学習において 1人1台端末ならではの活用方法を探る 異なる立場や考えを想定しながら 討論することで、物事を多角的に 検討する授業	

B中学校では、校内研究主題として評価を中心に研究を進められています。自分の課題からスタートして、1人1台端末を有効活用することで、全ての生徒の評価の妥当性を担保することができる実感されています。また、自分の課題を改善しながら校内研究主題と結び付けて授業改善に取り組まれている様子が分かります。



B中学校教員
(国語科)

「授業アップデートシート」の記述より

生徒は教師の指導力を映す鏡であり、生徒に力が付いていないときは、**自分の授業や指導を振り返る必要がある**と改めて感じました。